

読み手を意識した効果的な伝え方について考えを深める態度の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 姫路市立網干小学校 岡本 圭史

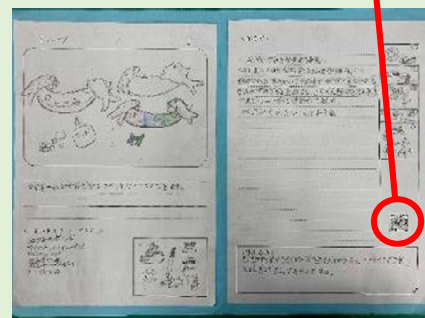
<p>本時の目標</p> <p>・「おもちゃの説明書」が、1年生により伝わるようになるために、写真や動画を効果的に用いた工夫について話し合い、選んだ動画を QR コード化して紙の説明書に加えることで、説明書のレベルアップをする。</p>	校種・学年	小学校・2年
	教科・領域	生活科
	アプリ・ソフト	・Google スライド ・Google ドライブ
	備考	端末付属のカメラ(動画) QR コード

○本時の展開

	<p>○学習活動 (◆指導上の留意点)</p>
導入	<p>○本時のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>より伝わる説明書にレベルアップさせよう</p> <p>◆写真や動画の効果的な活用方法について考える時間だという意識を共有する。</p>
展開	<p>○自分が撮った写真や動画を班で確認し、効果的に使えるものを選び、QR コード化して紙の説明書に貼り付ける。</p> <p>◆写真や動画の良さについて復習し、文字だけで伝わるものと写真や動画にすることで効果的に伝わるものを選別できるようにする。</p> <p>◆全て写真や動画とならないよう、ベースは紙の説明書で、写真や動画は伝わりやすくする補助的なものとして扱う意識を共有させておく。</p> <p>◆常に相手意識を強く持たせ、「読んだ人(見た人・聞いた人)にとって伝わりやすいものは何だろう?」と考えさせながら活動させることで、育成したい力にせまらせる。</p>
まとめ	<p>○本時の活動を振り返る。</p> <p>◆良さや課題を振り返り、全体で共有することで今後の活動に活かせるようにする。</p>

育成できる情報活用能力

- ◎文字の良さや写真や動画のよさについて、それぞれの特徴を比較しながら、効果的な活用方法や場面について考えを深めることができるようにする。
- ◎常に読み手や聞き手を意識して考えさせることで、自分よがりの伝え方にならないようにさせる。



児童の感想

- ・ただ書けばいいと思っていたけど、伝わるように書くのは難しい。
- ・教科書や図書室の本は、すごく考えて作られているのだとわかった。
- ・写真や動画を使うと、実際に目の前でやってみると同じくらい伝わる。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・アナログとデジタル双方の良さや強みについて考えることで、適切な場面で活用する力の育成に繋がった。
- ・常に読み手、聞き手を意識して活動させることで、多角的な視点の獲得とその習熟に繋がった。